

我が国の総人口、1億2000万人を突破!!

人口総数	全国 121,047,196人	茨城県 2,725,004人
男	59,495,663人	1,357,902人
女	61,551,533人	1,367,102人
世帯数	38,113,228世帯	757,689世帯

1. 総人口

昭和60年国勢調査による我が国の総人口は、1億2105万人であり、第1回国勢調査(大正9年)から、65年間で2.16倍に達したことになる。我が国の総人口を世界と比較(国際連合の推計による)すると、最大が中国(10.6億人)で、以下インド(7.6億人)、ソ連(2.8億人)、アメリカ(2.4億人)、インドネシア(1.6億人)、ブラジル(1.4億人)と続き、7番目に人口の多い国として日本が位置している。

茨城県の人口は、270万人を上回り、2,725,004人(男1,357,902人、女1,367,102人)である。これを各県と比較すると、東京の人口が1183万人と最も多く、以下、大阪府(867万人)、神奈川県(743万人)の順で続き、広島県(282万人)に次いで茨城県は12番目に人口の多い県である。13位は京都府(259万人)で、これは前回の結果と変わっていない。(表一)

2. 人口増加率の推移

前回国勢調査による我が国の総人口が1億1706万人であったので、この5年間に数で399万人、率で3.4%の増加である。5年ごとの人口増加率の推移をみると、大正9年(第1回)~昭和10年(第4回)までは、6.7%~7.9%と比較的高く、昭和10年(第4回)~昭和20年(人口調査)は1.1%~3.9%と大きく低下した。昭和20年(人口調査)~昭和25年(第7回)は15.3%と急激に上昇した。その後、昭和25年(第7回)~昭和45年(第11回)は、最初7.1%で、その後低下し、5%台の数値を示した。昭和45年(第11回)~昭和50年(第12回)で7%に上昇したが、その後の5年間で再び4.6%と低下し、さらに今回(昭和55年~昭和60年)は一層低下し、

表一 都道府県別人口、人口増減率及び人口密度

都道府県	人口 (1000人) 昭和60年	順位	人口増減率(%) ¹⁾		人口密度 (人/km ²) 昭和60年
			50年~55年	55年~60年	
全 国	121 047	—	4.6	3.4	325
北 海 道	5 679	6	4.5	1.9	72
青 森 県	1 524	28	3.8	0.0	159
岩 手 県	1 434	29	2.6	0.8	94
宮 城 県	2 176	15	6.5	4.5	298
秋 田 県	1 254	32	2.0	△ 0.2	108
山 形 県	1 262	31	2.6	0.8	135
福 島 県	2 080	17	3.3	2.2	151
茨 城 県	2 725	12	9.2	6.5	447
栃 木 県	1 866	21	5.5	4.1	291
群 馬 県	1 921	19	5.2	3.9	302
埼 玉 県	5 864	5	12.4	8.2	1 543
千 葉 県	5 148	8	14.1	8.7	1 000
東 京 都	11 828	1	△ 0.5	1.8	5 472
神 奈 川 県	7 432	3	8.2	7.3	3 094
新 潟 県	2 478	14	2.5	1.1	197
富 山 県	1 118	38	3.1	1.4	263
石 川 県	1 152	37	4.6	3.0	275
福 井 県	818	45	2.7	2.9	195
山 梨 県	833	44	2.7	3.6	187
長 野 県	2 137	16	3.3	2.5	157
岐 阜 県	2 029	18	4.9	3.5	191
静 岡 県	3 575	10	4.2	3.7	460
愛 知 県	6 455	4	5.0	3.8	1 257
三 重 県	1 747	24	3.7	3.6	302
滋 賀 県	1 156	36	9.6	7.0	288
京 都 府	2 586	13	4.2	2.3	561
大 阪 府	8 668	2	2.3	2.3	4 643
兵 庫 県	5 278	7	3.1	2.6	630
奈 良 県	1 305	30	12.2	7.9	353
和 歌 山 県	1 087	39	1.4	0.0	230
鳥 取 県	616	47	3.9	2.0	176
島 根 県	795	46	2.1	1.2	120
岡 山 県	1 917	20	3.1	2.4	270
広 島 県	2 819	11	3.5	2.9	333
山 口 県	1 602	25	2.0	0.9	262
徳 島 県	835	43	2.5	1.2	201
香 川 県	1 023	40	4.0	2.3	543
愛 媛 県	1 530	27	2.8	1.5	270
高 知 県	840	42	2.8	1.0	118
福 岡 県	4 719	9	6.1	3.6	952
佐 賀 県	880	41	3.3	1.7	362
長 崎 県	1 594	26	1.2	0.2	388
熊 本 県	1 838	22	4.4	2.6	248
大 分 県	1 250	33	3.2	1.7	197
宮 崎 県	1 176	35	6.1	2.1	152
鹿 児 島 県	1 819	23	3.5	1.9	199
沖 縄 県	1 179	34	6.1	6.6	523

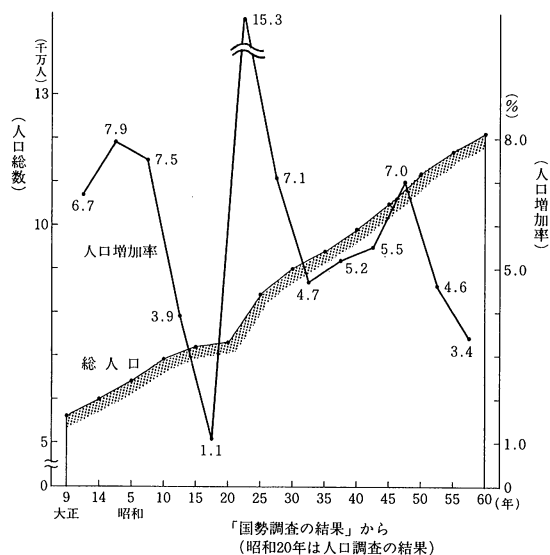
資料：面積は、建設省国土地理院「昭和59年全国都道府県市区町村別土地利用」による。
1) 期末時の境域による。

..... 昭和60年国勢調査結果速報から

3.4%と戦後で最低の数値を示すに至っている。
(図-1)

また、都道府県別に今回の人口増加をみると、秋田県の人口が微減したのみで、他の都道府県は増加である。最も高い増加率を示したのは、前回同様千葉県(8.7%)で、以下、埼玉県(8.2%)、奈良県(7.9%)の順になっている。茨城県は沖縄県(6.6%)に続いて7番目である。これら人口増加率の高い県はいずれも、東京都と大阪府の隣接県となっている。(なお、沖縄県は他の県と異なり、出生率が高いためによる。)一方、山口県(0.9%)、岩手県(0.8%)、山形県(0.8%)、長崎県(0.2%)、青森県(0.04%)、及び和歌山県(0.02%)では、人口増加率が1%に満たなかった。(表-1)

図-1 日本の人口の推移(大正9~昭和60年)



3. 市町村の人口、人口増減率

全国の市町村数(昭和60年10月1日現在)は、3,254(東京都特別区を1市と数える)であり、市は652、町村は2,602である。市部人口は9,289万人(割合で76.7%)、町村人口は2,816万人(同23.3%)を占めている。(表-2)

人口規模別に市町村をみると、市では、人口100万人以上が11、50~100万人が10、30~50万人が39、20~30万人が39、10~20万人が104、5~10万人が217、3~5万人が179、そして、3万人未満が53となっている。町村では、3万人以上が83、2~3万人が238、1~2万人が771、5千~1万人が940、5千人未満が570となっている。

また、昭和55年~昭和60年に人口が増加したのは1,678市町村(全市町村の51.6%)、減少したのは1,573市町村(同48.3%)である。過半数の市町

表-2 人口階級別の市町村数、人口及び人口増減率

人口階級	市町村数 ¹⁾		人口(1,000人)		人口の割合(%)		人口増減率(%) ²⁾	
	55年	60年	55年	60年	55年	60年	50年~55年	55年~60年
総数	3,256	3,254	117,060	121,047	100.0	100.0	4.6	3.4
市	647	652	89,187	92,888	76.2	76.7	4.8	3.7
100万以上	10	11	23,298	24,881	19.9	20.6	0.1	2.5
50万~100万未満	9	10	5,743	6,019	4.9	5.0	6.2	3.5
30万~50万	36	39	13,709	14,852	11.7	12.3	7.4	4.6
20万~30万	42	39	10,345	9,697	8.8	8.0	7.6	4.5
10万~20万	96	104	12,965	14,200	11.1	11.7	7.0	4.9
5万~10万	207	217	14,115	14,878	12.1	12.3	7.4	5.1
3万~5万	198	179	7,764	7,019	6.6	5.8	2.9	1.3
3万未満	49	53	1,248	1,341	1.1	1.1	△ 1.8	△ 2.1
町村	2,609	2,602	27,873	28,160	23.8	23.3	4.0	2.4
3万以上	59	83	2,278	3,083	1.9	2.5	24.1	12.3
2万~3万未満	229	238	5,536	5,721	4.7	4.7	8.2	5.4
1万~2万	809	771	11,277	10,732	9.6	8.9	3.4	1.9
5千~1万	964	940	7,051	6,855	6.0	5.7	△ 1.1	△ 1.1
5千未満	548	570	1,731	1,769	1.5	1.5	△ 5.0	△ 4.3

1) 東京都特別区部は1市として計算した。
2) 期末時の人口階級別市町村の境域による。

村で増加したことになる。

次に、市町村別に人口増減率を前回との比較してみると、人口増減の比較的穏やかな市町村が多く、市町村間の人口増減率の格差が小さくなってきて

● 特集

いる傾向が前回に続きみられる。

4. 市町村の全国順位から

人口総数で、牛久町(51,926人)が5万人を上回り、全国の町村中、第2番目に人口の多い町となっている。村においては、桜村(41,335人)が1番人口の多い村である。逆に、人口の少ない町村としては、愛知県富山村(194人)が、200人に満たない村である。(表-3)

また、5年間の人口増加率では、全国で1番が市では千葉県浦安市(45.0%)、町村では山梨県玉穂町(63.2%)となっている。町村の玉穂町と2番の京都府加茂町の2町については、5年前の人口の半数以上の増加を示したことになる。町村の10位中に、利根町(6位, 37.4%)、守谷町(9位, 35.7%)が入っている。人口減少においては、前回の人口の半分以下になった村として、岐阜県徳山村(51.6%減)があげられる。

5. 世帯

我が国の世帯総数は3811万世帯で、前回に比べ、210万世帯、率で5.8%の増加である。世帯の増加率は、昭和45年以降、各回ごとに低下幅は小さくなっている。また、1世帯当たりの世帯人員は3.18人であり、世帯規模の縮小が引き続き進行している。

また、茨城県の世帯数は757,689世帯で、前回に比べ、数で64,834世帯、率で9.4%の増加である。1世帯当たりの人員は、前回より0.09人少なくなり、3.60人となった。この世帯数は全国の中では、13位となっている。

また、世帯規模については、茨城県(3.60人)は多い方で、

全国1番が山形県(3.81人)で、以下、富山県(3.72人)、福井県(3.65人)、新潟県(3.64人)、佐賀県(3.63人)、福島県(3.62人)、茨城県(3.60人)の順となり、8位となっている。

逆に、1世帯当たりの世帯規模の小さい県は、東京都(2.62人)をはじめとして、鹿児島県(2.84人)、北海道(2.94人)の順となっている。

6. 人口重心点

人口重心は、人口の地域分布の状況を示すものであるが、今回の我が国の人口重心は、岐阜県郡上郡美並村片知山の東約1,400mの位置である。これは、前回より、東南東へ約1.9km移動したことになる。

同様に茨城県の人口重心は、前回より南南西へ

表-3 人口

人口の多い順	市		町 村	
	市 名	人 口 (人)	町 村 名	人 口 (人)
1	東京都特別区部	8,353,674	宇目町(広島県)	52,020
2	横浜市	2,992,644	牛久町(茨城県)	51,926
3	大阪市	2,636,260	筆手町(埼玉県)	51,462
4	名古屋市	2,116,350	狭山町(大阪府)	50,246
5	札幌市	1,542,979	巖前町(大阪府)	49,640
6	京都市	1,479,125	鶴ヶ島町(埼玉県)	49,381
7	神戸市	1,410,843	府中町(広島県)	48,835
8	福岡市	1,160,402	自高町(埼玉県)	48,228
9	川崎市	1,088,611	前原町(福岡県)	47,224
10	北九州市	1,056,400	羽狩町(東京都)	47,202

表-4 人口増減率(昭和55~60年)

人口増加率の高い順	都 道 府 県		市		町 村	
	都道府県名	人口増減率(%)	市 名	人口増減率(%)	町 村 名	人口増減率(%)
1	千葉県	8.7	浦安市(千葉県)	45.0	玉穂町(山梨県)	63.2
2	埼玉県	8.2	多摩市(東京都)	28.2	加茂町(京都府)	53.4
3	奈良県	7.9	名張市(三重県)	26.9	栄町(千葉県)	48.7
4	神奈川県	7.3	泉市(宮城県)	26.7	富里町(千葉県)	42.8
5	滋賀県	7.0	可児市(岐阜県)	26.0	鶴ヶ島町(埼玉県)	37.8
6	沖縄県	6.6	生駒市(奈良県)	22.5	利根町(茨城県)	37.4
7	茨城県	6.5	厚木市(神奈川県)	20.8	長久手町(愛知県)	37.1
8	宮城県	4.5	海老名市(神奈川県)	20.21	酒々井町(千葉県)	36.4
9	栃木県	4.1	松任市(石川県)	20.15	守谷町(茨城県)	35.7
10	群馬県	3.9	佐倉市(千葉県)	19.8	鳩山町(埼玉県)	35.2

注) 増減率が同率の場合のみ小数点第2位まで表示。

約899m移動して、東茨城郡美野里町羽鳥金谷久保の位置となっている。

7. おわりに

この結果は、昭和60年10月1日現在で行った

国勢調査市区町村要計表から、国及び県がそれぞれ公表した数値に基づくものです。したがって、後日国が公表する確定数と異なる場合があります。

(統計課・人口労働グループ)

国勢調査人口予想懸賞に1位入賞して

江戸崎町 山崎光春

予想人口	2,725,008人
国勢調査概数	2,725,004人



県の統計課の方から電話をいただいて「山崎さんが1位になりました」と聞かされたときは、思わず「あー」と声を上げてしまった。遊び半分応募したのに、当たるなんて思ってもいなかった。ふだん宝くじなどでも、当たるかなとワクワクしているときは、必ずとっていいほど当たらないことのほうが多い。それにしても、県内で1人だけなので、これは運のいいことだと思った。

どのように算出したか簡単にいうと、まだ9月の常住人口調査の人口が分からなかったので、8月の常住人口調査の人口と8、9月の住民基本台帳による人口から、9月の常住人口を推計してみた。そして、前回(昭和50年、55年)までの国勢調査の人口とその前の月(9月)の人口を書き出し、9月の人口と国勢調査時の人口との差を出して、これらの数字から大まかな昭和60年10月の予想人口を算出してみた。そのうえで、科学博関係で多少増えているだろうと考え、一定の割合で人口を増やして得た数字の1つが4人違いであったわけである。

近ごろ、まったくとっていいほど刺激のない生活だったところ、1位になったお陰で大変良い

刺激になったと思う。朝、仕事に行ってみると「おい、新聞にでているぞ」と言われ、見てみると、なんと、自分の名前が載っている。何とも信じ難い心境で、思わず手が震えてきた。そのあとは、皆に冷やかされるし、遠くの友人から電話がかかってきたりで、しばらく興奮が収まらなかった。お陰で町の人気者になってしまった。県の方、新聞社の方、私の名を載せて下さいましてありがとうございました。その日の新聞はどの新聞も買ってきて、取って置いてあります。私の一生の記念になりました。

話は変わるが、ふだん一般の人は、統計というものについてそれほど興味がないと思う。今回のような懸賞募集を実施したことは、統計に対する認識を持たせるために大変良かったのではないと思う。今回に懲りず、昭和65年以後も実施して下さい。また応募します。

最後に、この文章を読んで下さった皆様へ。まだまだ寒い日が続きます。お体を大切にしてください。街で会ったら、私が1位になった山崎ですので気軽に声をかけて下さい。